

一緒にだよ、そばにいる

犬って不思議だ。言葉は交わせなくても、人の暮らしに溶け込み、家族やコミュニティーの一員になっている。他の動物はもちろん、人間同士でもできない絆が、犬となら築けることもある。成年にちなんで犬と人のつながりをたどると、人にとってかけがえのない存在になった犬に、たくさん出会った。

犬と人の物語

2018 成年



1

病児に寄り添う

笑顔

「ベイリー」。昨年12月初旬、県立こども医療センター(横浜市南区)の廊下に、金村駿汰ちゃん(5)と市鶴見区のかわいらしい声が響いた。駿汰ちゃんの目線の先には、白いゴールデンレトリバー。同センターに常勤し、重い病気の子どもらに寄り添う「フアシリティードック」のベイリーだ。脳腫瘍を患い約2年半入院した駿汰ちゃん。手術を経ても腫瘍は残存し、退院後もたびたび病院を訪れる。この日は検査入院の日だった。久しぶりのベイリー。駿汰ちゃんは、少しだけ視力が残る左目で見つめながらフワフワの毛に触れ、顔をほころばせた。



町 471 475
南 518 457
生 840 881
階 032 376
4 053 2601 0525 3229 4608